

利用しづらいバス対策は

デマンドバス運行を目指す



みやがわ のりみつ 議員 宮川 徳光

答 松田 総務課長

利用者の減少の要因については、黒潮町では地理的に枝線が多く効率的な事業運営がしづらいことに加え、少子高齢化、人口減による利用の減少。また、自家用車の普及により公共交通機関への依存度の低下などが主なものと考えている。

問 公共バスの利用者は、ほとんどが高齢者で交通弱者と思われるが、その利用者からは「バスは利用しづらいので、他の移動手段に頼っている」との声が多く聞かえる。

このように高齢化が進む中にも関わらずバスの利用者が減少して乗客ゼロの空便が走り、これに伴って公的負担は年々増加している見えるが、これら利用者の減少の要因等と、年度毎の公的負担額を伺う。

利用者の声には、公共交通総合連携計画の作成時に全戸配布でのアンケート調査をしており、ある程度の把握が出来る程度と考えているが、それ以後の調査はしていない。

バス運行に対する補助金額は、高南観光と西南交通の合計で平成21年度3714万円、平成22年度4326万円、平成23年度4046万円であった。なお、平成23年度の総乗客数は1万8603人で、1

日換算で51人となっている。

問 公共バスが利用しづらいとの声への対策、及び今後の方向性を伺う。

答 松田 総務課長

来年4月から加持川地域の小屋敷、本谷、大井川、それから、早咲から田村、加持本村でデマンドバス（注1）の運行を目指して地元と調整中。今後の方向性については、このデマンドバス方式を町内全域に検討していきたいと考えている。

（注1）：利用者の要求に対応して運行する形態のバス

生活環境

近過ぎ・太り過ぎ
公園雑木
関係部署と
協議する

問 県立自然公園入野松原と境界を接する地区内にある住宅や畑については、公園内の樹木が大きく育ちすぎ、境界を越えて宅地や畑に枝葉が入

り込んだ状態のところが多く見受けられる。

これらにより、日当たりや落ち葉のゴミなどの生活環境の悪化、また畑では作物の生育環境の悪化を生じていると思われるが、どのように現状を把握しているか、また、そのことへの対策を伺いたい。

答 浜田 海洋森林課長

支障木の伐採については、部落要望を受けて四万十森林

管理署と協議を行い、同署にて平成25年度に実施出来るようにしたいとのこと、地元要望を取りまとめ貰いたいとのことであった。

また、これらの伐採木の処理費用を平成25年度町の予算に計上したいと考えている。

日照権や陰切りの件については、関係部落の区長・住民の方にお聞きし、協議しながら、四万十森林管理署と対応を協議したい。



入野松原に隣接する集落・畑（浜の宮部落）